



学 友 会 会 報

第 14 号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深堂1301 ☎(0574) 26-7121



学生ホール完成

本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様方には、益々御健勝で御活躍のことと、お慶び申し上げます。

平成七年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告させていただきます。

母校に於かれましては、今年三月初めての、専攻科卒業生を世に送り出すと共に、長年の夢でもありました、学生ホールも完成し、一段と充実した教育環境の下、有馬新学長が就任され、新しい気持ちでの船出となっております事を、心から嬉しく思いますと同時に、中身のより一層濃い、人間教育がなされます事を願っております。

さて、自動車業界も、長い低迷の時にあり、生き残りをかけた、かなり厳しい競争が行なわれている現状です。この様な厳しい時代だからこそ、その時をどう過ごしたかによって、後々に大きな影響を及ぼすものと考え、基本に立ち



会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学

学友会会長 丹 地 章 夫

返り、人として、精神面の成長を図りたいと考えている昨今です。この様な時を生きる私達にとって、学生時代の友人程、利害関係抜きで付き合える相手はありません。

学友会は、そんな皆さんの、より広い出会いの場、語らいの場となる事を願っています。

その為にも、皆さんの少しでも近くに、是非共支部を発足させたいと思っています。

新支部設立こそが、とりあえず当面の学友会最大の目標です。会員の皆様方の、忌憚のない御意見と御協力をお願い致します。尚、OB諸兄の方々の中には、現在、相当な活躍をされている方も多く聞いております。

どうか、今後共、母校ひいては、学友会発展の為に、後輩の就職、入学希望者の推薦等のお力添えを頂きます様、併せてお願い致します。

やがて来る、学校創立三十周年を一人でも多くの皆さんと共に迎

え歓迎を分かち合いたいと思っています。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、



学 長 挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 有 馬 泉

学友会の皆様、お元気で御活躍のことと存じます。私、この度、四月一日付にて学長に就任致しました。大学を取り巻く環境の大変厳しい折りでございますが、最善を尽くしてこの重責を果たす所存でございます。何卒宮岡前学長同様、ご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。なお、宮岡前学長は、引き続き本学教授・学監としてご活躍しておられます。

次に、今年度の新入学生の概況について申し上げます。自動車工業科入学生は七六九名、内女子学生二一名、留学生五名で、アジア諸国からの留学生を含め、全国各地から大勢の入学生を迎えることができましたことは、学友会の皆様方を始め、各方面からの厚いご支援の結果であると評価しております。また、専攻科自動車工学専攻には、十一名の優秀な学生達を

御援助を賜りました、大学関係者並びに、OB諸兄、特に学内在籍のOB諸兄に對しまして心より厚く御礼申し上げます。

迎えることができ大変喜んでおります。さらに、今年度の入学式には、ご来賓を始め、全国各地から四百名を越すご父兄がご列席され、盛大な入学式が挙行できましたことを併せてご報告いたします。

さて、私は、約三十八年の間、大阪大学、岐阜大学で研究・教育に専念してきました。そして、この度ご縁があり、この四月から本学に勤務していますが、ここで、本学と前職の大学との特徴的な点について述べたいと思います。四年制大学の場合、三年次まではほとんど一方的な講義のみであり、指導ができるのは、四年次卒業研究の時であり、学生にとっては、最も充実した一年間です。本学の場合、例えば、本年度前期授業時間割では、多人数教育を避けるた

め、一学年七百名を越す学生を十二組に分けて講義し、さらに、各学年とも週三日の実習があり、きめ細かな実習指導ができるように配慮されています。また、学生各自が、二級自動車整備士の国家資格取得のために努力している姿が



恩師からのメッセージ

中日本自動車短期大学

学 監 宮 岡 達 志

学友会（卒業生）の諸君、お元気で活躍のことと存じます。私は本年の三月をもって、任期が満了しましたので、学長を退任いたしました。二期四年、その前の学長事務取扱の期間を含めると、五年の長い間、何かと御支援を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。カリキュラムの改善など、学長就任の時から、実行しようと思いつながら、結局、実行出来ず仕舞いで、あれもやらなかった、これもやらなかったと、我が身の腑甲斐無さを、悔んでいます。現在、学監として、中日本短大のために尽そうと思っています。哲学と倫理学の講義は今まで通り担当しています。

さて、今回は二つのことを是非

見られます。このような学生諸君の確固たる志が達成できるよう、私達教職員は、教育内容のさらなる改善と実習設備の整備充実に努力していくつもりです。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

御報告いたしたいと思います。一つは、我々の永年の懸案であった学生ホールを完成し、本年三月十日に竣工式を挙行了したことです。伝説の鳥「フェニックス」が翼を広げたようで、キャンパスに大きな美の空間が出現しました。学生にとつて憩いと語らいの場にもなっています。二階には、学友会の部屋も作りました。是非利用して下さい。

次に、我が中日本短大だけでなく、神野学園としても初めての行事ですが、「将来計画シンポジウム」を開催したことであります。約一年の準備期間を経て、本年二月十日に中日本短大で開催しました。本学の教職員は全員、それに学園本部からは理事・評議員、本

部職員、また姉妹校からも参加して、なかなか盛大でありました。今回の主要テーマは、開学三十周年に向けて相応しい意義あるものとして、「二十一世紀に向けた将来計画の展望」とし、私が学長として基調報告をいたしました。即ち「大学は冬の時代」とマスコミに喧伝される十八才人口の急減に、長期円高とバブル崩壊というトリプルダメージに加え、車検制度の変化という厳しい状況の中で、本学が、「健全に存在し、健全に発展する」ことを目指すためには、教育の原点に立って、真剣に、自己点検・自己評価をしなければならぬと訴えたのです。そこで開学以来入学式や卒業式で、歴代の学長から、創設者神野浅義先生の言葉として、「技術者たる前に人間たれ！」と繰り返されてきた言葉も、「學術・文化の継承と創造の担い手として、自然対人間、社会対人間、人間対人間の調和のとれた堅忍不拔な技術者の育成」と補足し、建学の精神として再確認しました。（なお、このことは、日本私立短期大学協会の機関誌「短期大学教育」第五十一号「特集「短期大学における教育改革」」にも私が寄稿し、公表しま

した。〕勿論、「新学科増設」「四年制大学構想」等の将来計画も討議しましたが、先ず、現在の本科（短期大学）と専攻科の充実を図ることが先決であるとの結論に達しました。たまたま、短期大学設置基準の改正（大綱化）で文部省の規制が緩和され、また運輸省の養成施設の指定基準も緩和され、「学科四〇〇時間以上、実習六〇〇時間以上」が「学科三五〇時間以上が実習四五〇時間以上」に改正されました。また受験資格等の取扱いも改正されました。このような状況の変化を踏まえたとき、当然我々は本学のカリキュラムの改善・改革に取り組まなければなりません。また、専攻科の充実を図るということは、本学の専攻科を学位授与機構に申請し、その認定を受けることであります。そうすれば、本学の専攻科の修了生にも、学士の学位取得の道が開けることとなります。さて、「健全に存在し、健全に発展する」ためには、上記の教育の充実・改善の上に、厳しい経営環境に対応する減量経営の徹底と投資計画（本館・図書館等の新築）のための資金の蓄積をめざさなければならぬことも訴えました。

次に、中島靖範学生部長が提案者となり、「教育研究活動の課題と将来構想」というテーマで討議しました。先ず、カリキュラムの改善については、シラバスを整備し、体系化されたカリキュラムで系統的に教育が実施されなければならないこと、また、学生の卒業後の進路、就職の多様化にも対応し、また社会や時代の要請にも応える新教育計画を創造することが確認されました。このカリキュラムの多様化により、学生の就職分野が自動車販売業界から、広く一般の製造業界・板金塗装業界・損害保険業界或は海外へと拡大されます。また専攻科や四年制大学への進学も促進されます。（近年、進学者が増加している。）なお、現在も外国人留学生を受け入れ、また中国の武漢自動車工業大学などから毎年若い研究者を研修生として受け入れていますが、今後は広くアジアや欧米諸国の大学や研究機関とも学術交流を推進し、国際交流の促進を図ることの重要性が指摘されました。

また、福井稔図書館長から、「図書館の在り方に関するポリシーの確立」が提案され、討議しました。

桜谷興道広報室長から、「学生募集広報の主な対象とポイント」が報告され、今後益々重要になる学生募集活動が検討されました。最後に、杉浦禎宣事務局長から、「管理運営のトライアングルと情報の流れ」というテーマで、人事政策・管材管理・財務運営を「人・「物」・「金」を包含する総合システムとして整備してゆかなければならないと提案され、討議しました。

以上が、今回の将来計画シンポジウムでしたが、初めての企画にもかかわらず、数時間に亘り、全員熱心に討議しました。それぞれの問題を、自分の問題として、皆がとらえたということが重要な点であったと思います。これを契機に我々は中日本短大の発展のために、考え、実行してゆきます。

学生ホール完成

―三月十日―

盛大に竣工披露―



建設・運営
準備委員長
事務局長
杉浦 禎 宣

去る三月十日、二百五十名を超える来賓各位のご参列を得て、盛

大に「学生ホール・竣工披露」が行われました。

あと、二年余に迫った開学三十周年に向け、記念事業のひとつとして、独立した学友会室を併設した、待望の学生ホールが完成したのです。

永い間、熱いまなざしで声援を送り続けて下さった学友会諸兄諸姉各位のご芳情に対し、まず以て衷心より厚く御礼申し上げます。

完成した学生ホールは、これから社会に飛翔する学生の無限の可能性をイメージしたデザインで、エントランスホールを中心に、ラウンジと食堂を左右に配置し、内部空間を広く演出した赤いダイアモンド・トラス構造の天井。周囲をカーテンウォールで巡らせ、自然光と人工光を巧みに組み合わせた明るい室内。専門家の手による音場設計。高感性に溢れるシックな輸入インテリア。学友会諸兄諸姉各位と学生諸君にとって、新たな憩いと語らいの空間が出来上がったのです。

「学生ホール」は、現在「名無しの権兵衛」、目下、素敵な名称を募集中です。（学生課まで）

ところで、かつての二十周年記念事業の中心課題は「教育施設の

拡充・整備」でした。

バブル好況に、十八歳人口の急増期と言う背景に支えられたお陰で「キャンパス・リフレッシュ」は予定どおり進捗し、学生寄宿舎「敬愛寮」、「グラント施設」、「教育棟」、「実習棟」等、一応初期の目的を達しました。

これに続く残された計画の筆頭が「学生ホール」の建設で、やっ

と夢が実現したことになります。いま、教育機関を取り巻く環境はまことに厳しく、「管理棟」や「図書館」の新築建て直しについては、残念ながら未だ具体的な目途は立っていません。

来年度はキャンパス外構工事を進め、再来年は実験実習設備等、教育設備の充実に取り組み予定であり、そのための寄付金募集も計画しています。

各位の絶大なるご支援を切望して止みません。

学生ホールの概要

- ◆面積
建築面積 1,427.06㎡
床面積 1,681.20㎡
- ◆構造
RC造2階（平屋根TMTラス構造）
- ◆施設
【1階】
食堂（カフェテリア方式） 256席
ラウンジ（ ） 136席
玄関ホール/厨房/自販機/公衆電話等
【2階】
学友会室/保健室/ロッカールーム（男534、女40）/留学生交流室など

実習の紹介 — シヤシ—I

シヤシI実習は、一年次必修の実習五科目(ガソリンエンジンI、ジーゼルエンジンI、シヤシI、シヤシII、自動車基礎実習)の一つです。以前はシヤシという科目でしたが、科目名称変更でシヤシIになりました。シヤシ部門の実習教育をシヤシIIとともに現在行っています。

実習内容は主に動力伝達装置(クラッチ、トランスミッション、デフ、ディファレンシャル)の分解、組付、構造、作動確認による基礎的知識を積上げ、測定、調整等の技術を修得し、故障探求等の基礎整備技術修得が目的です。

実習の形態としては二つに別か



写真右から杉山、水谷、栗本先生



れ、一つは6R1実習場でクラッチ、FR車用T40型トランスミッション、FF車用F5M-R型トランスアクスルの分解、点検測定、組付、構造、機能の確認を実施、三菱パジェロのトランスファ、ノンスリップ・デフ、ビスカス・カップリング・デフ、インタ

アクスル、トルセン・デフ、プロペラ・シャフト、ユニバーサル・ジョイントの構造、作動確認を行い、視聴覚教材(ビデオ、モニター、ビジュアルプレゼンタ、OHP)を使用して教育の充実をはかっています。併せてノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージの測定技術習得を目的としています。

もう一つは6R2実習場で、リフト6基、実車6台により、実車からのトランスミッション、ディファレンシャルの脱着、フロ

ト・ホイール・アライメントの測定、調整、ディスク・パッド交換を行っております。

以上、実習教育においては基礎から応用を目指して今後、サスペンションの脱着、FF車のトランスミッション脱着等実車教育の充実、シヤシ新機構教材の導入をはかつて行きたいと考えています。

最後にOB諸氏の活躍と発展を切望すると共に御指摘、御指導を戴ければ幸いに存じます。

認定試験の合格率

技術研修課

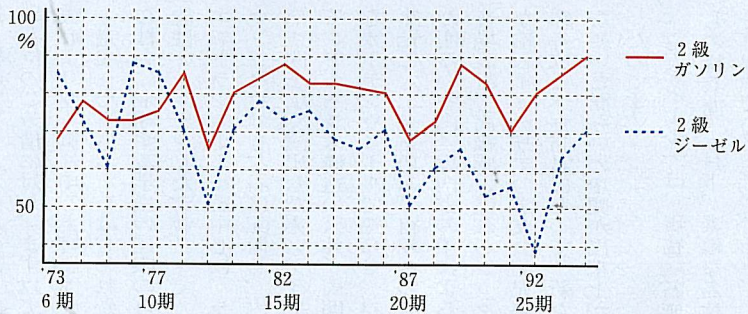
毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。

今年は、第二十七期の学生が本学にて三月二十六日に受験しました。その結果は、二級ガソリンが八十九・六%、二級ジーゼルが七十一・一%でした。

グラフからも分かるように、二級ガソリンにおきましては、認定試験制度が始まった第六期生より過去最高の合格率になりました。

また、二級ジーゼルにおきまして、平成の年号になって初めて七十%のラインを越えました。今後共さらに、一人でも多くの

学生が合格できるよう努力して行きたいと思っています。



OB近況



ホンダクリオ名古屋

(マレーシア出身)

二十三期生 鄭 元武さん

私の国マレーシアでは街を走る70~80%の車が日本車で特にホンダではアコード、シビックが多く走っています。そんな国柄から将来自分で整備工場を開きたいという夢を小さい頃から持っていました。それにはまず日本の整備技術を身に付けたいとダメだと思い日本への留学を決意しました。

日本の整備技術をマスターするには優れた整備学校へ留学しないと基礎技術は身につかないと思いきや色々な情報を手に入れ各国からさまざまな方が留学している優秀な整備学校「中日本自動車短期大学」が最もすぐれている事を聞き当校へ留学する事が出来ました。しかし、日本語ではなかなか理解する事が難しく苦労の連続でした。日常会話は仲間もいたため何とか障害も乗り越える事ができましたが、学校で学ぶ整備技術は専門用語が多く理解する事が難しかったです。それでも幸い恵まれた教育環境と先生を始め諸先輩方の熱心な教育指導をして頂いたおかげで、私は様々な学習困難を乗り越

え中日本自動車短期大学を卒業できる事ができ、心から感謝しております。

大学卒業後ホンダディーラーである(株)ホンダクリオ名古屋に入社、一宮西店に勤務、職場は大変明るく活気のある所で社員の方も親切で毎日楽しくすごしてあります。毎日が忙がしい中で私は、高度な技術が必要とする燃料噴射装置故障探究、A/T故障診断と分解整備等難かしいとされている分野に挑戦し現在4年経過しました。私がこれまでやってこれたのも大学で学んだ基礎技術があったからだと思っております。大学で学んだ基礎技術、ホンダクリオ名古屋で学んだ実践技術を早く生かしたいのと同時に、母国でサービス工場を開きたいという夢を実現するために私は、今年一杯でマレーシアに帰る予定をしております。



愛知トヨタ(株)
十七期生
兼松健二さん

時の経つのは早いもので、卒業して10年が経過しました。現在私は、愛知トヨタ(株)のサービス部に所属しております。業務内容としては、主にメーカーとの技術交換や営業所に対しての技術支援です。卒業後5年間、エンジニアとして活躍しておりましたが、その後トヨタサービス技術コンクルの選手として訓練を受けました。そしてH4・3の全国コンクールへ出場を果たし、その結果優勝は逃しましたがなんと表彰台に立つことは出来ました。このコンクルは、速く正確な故障診断及び修理を競うものですが、そのチェック項目の中では、整備の安全性やお客様の車の取扱いも重要視されます。トヨタでは年に一回開催されます。在学生の皆様も是非一度見学してみたいかがでしょうか。見応えはあると思います。

は減少していると思われます。しかしその反面お客様の要求も細かくそして厳しくなってきました。その中には、車が走行する限り消去することが出来ない振動騒音が有ります。又、その車自身の持つたフィーリングに対する苦情も有ります。その様な声にも出来る限り耳を傾け判断し対応することが、必要であり大切になってきています。今後サービスは、的確な整備だけでなく、苦情に対する的確な判断、お客様に対しての的確な説明が不可欠なものであると思います。



宝和工業(株)
二十期生
若子達夫さん

最後に、自動車業界そして整備業界を取り巻く現況は今後も厳しいと思われますが、そこに足を踏み入れた以上、与えられた仕事の中で精一杯努力していきたいと考えております。

が始まり求人資料を見ると、大手自動車メーカー等「創る」側の求人があるではありませんか。それ以来、どうせ車好きでこの道を選んだのなら、自分の出来る所まで挑戦しようと思ったのが切っ掛けで現在の会社にお世話になる事となりました。

入社以来、自動車用座席を主とした内装品の設計業務に携っております。昨年四月からはスズキ(株)の設計へ出向し「創る」側の考えを反映した設計が出来る様頑張っておりますが、ただ機能的に満足しても、コスト・重量等の諸問題も絡み、生産開始後もコスト低減活動・重量低減活動に追われ、忙しい日々を送っております。

今後ユーザの求める車、乗っていて気持ちの良い、満足出来る車創り(車造り)の手助けが出来る一人前の技術者となる様に、よりいっそう努力して行きたいと思っております。

在学生



専攻科
自動車工学専攻
五藤久義さん

専攻科へ入学する前は、専攻科へ入学したら何を学んで行くのだろうと思っていました。入学してみるとそんなに深く悩むこともありませんでした。なぜなら、選択できる科目が多く、自分のやりたい科目を選ぶことができるからです。ゼミなどは、いろいろな

メーカーの現場の方に講話していただいて様々なことを学ぶことができます。授業は、少人数で行われているので、わかりやすく教えていただくことができます。このようなことから学生生活は充実しており、入学できたことをうれしく思っています。

就職は一回生の先輩たちが、就職されたのですが、まだ専攻科ができて短かいので梓は小さいと思うのですが、これから、たくさんの方を学んでいって、企業に専攻科のことを知ってもらいたいことだと思っております。

これから専攻科に進んでこれる人たちのためにもがんばっていきましょう。



二年
神奈川県立
大和東高校
笹森寛恭さん

この学校に入学するときには、

いろいろなことを考えました。高校を卒業して二年間自動車とはまったく関係ない仕事をしていたが、自動車が好きて、二級整備士を取得したくて中日本自動車短期大学を受験しました。無事に入学できた初めのうちは、慣れないために実習授業なども大変戸惑いました。そして慣れたころにはもう一年生も終りになり、この四月からは二年生となりまた新たな気持ちで向っています。今年は整備士の国家試験もあり、勉強すること多く大変ですが入学時の目標である二級整備士を取得するためがんばろうと思います。それと残り一年は学生生活最後の年でもあるので、今しか出来ないことを、精一杯やっつけていこうと思います。また、就職難といわれる中で、就職先を見つけるのは容易なことではないですが、自分のやりたい仕事に就けるように活動していきたいです。

最後に今年の目標は二級整備士はもちろんのこと卒業と就職が無事に出来、悔いのないようがんばっていききたいと思っています。

私は高校に入ってから自動車に興味を持ち、GSにアルバイトするようになりました。しかし、これだけでは物足りず自動車や二輪車の本を購入しては、どんな仕組みで動いているのかを考えていました。時の経つのは早く、三年の夏中日本自動車短期大学の資料を見て、工業高校からでも入学できるという事を知りました。一生懸命勉強をして日本の学生になれた事を私は嬉しく思うとともに、日本の学生として恥じないような心を育てて行くつもりです。又、自分の興味ある勉強ができて、さらに自動車整備士の勉強ができる大学は他にはないと思っています。

大学生活ももう一カ月が過ぎようとしています。学校の生活の中では今年から学生ホールが設立されて、食事事も楽しく出来ます。まだ、駆け出しの私ですが、一生懸命勉強して自動車整備士の資格を取得できるように頑張りたいと思います。



一年 愛知県立
春日井工業高校
新谷 健さん

支部設置について

組織担当幹事

昨年十月に開催された学友会において、役員の改選をはじめ今年度事業計画等の議題が承認されました。その中で今年度も前年度同様「支部活動の活性化と増設」がおりこまれました。しかし、年明け早々の兵庫県南部地震や地下鉄サリン騒動等の事情で活動が思うように出来ませんでした。

そこで、今一度「支部設置規則」を掲載させて頂きますので、これから支部設立計画がありましたら参考にされ、また、支部活動計画等ありましたら本部組織担当幹事までご連絡頂ければと思います。

支部設置規則

【第一条】

この規則は学友会の支部設置を目的とする。

【第二条】

支部は会員の親睦を図り、本部の活動に協力し、母校の興隆に寄与するものとする。

【第三条】

支部を設置するには三名以上の代表者を定めて当該支部地域若しくは職域を示し、支部規約（細則を含む）及び加盟会員の名簿を添えて本部に届け、承認を得なければならない。

ただし、同一会員は二つ以上の支部には加盟できない。

【第四条】

支部は支部長及び五名以上の役員を置かなければならない。

【第四条の二】

支部は一定の事務所を定め、支部規約、所属会員名簿、会計帳簿、その他の書類を備えなければならない。

【第五条】

支部は毎年五月末日までに支部長並びに役員の名、所属会員の動静、支部運営の状況などを文書で本部に報告しなければならない。

【第五条の二】

支部は規約の変更、役員の交替、会員の入退会、総会の開催などについてその都度本部に報告しなければならない。

但し、規約の変更については本部に届け、承認を得なければならない。

【第六条】

支部がこの規則に違反する時は、その承認を取り消すことが出来る。

来る。

【第七条】

本規則は昭和五十五年十月十九日から施行する。

象よりも大きい

ティラノ・サウルス

第五回 文化講演会

昨年十月二十九日に第五回文化講演会が大学の1号館で開催されました。過去四回は、諸般の事情から大学周辺の施設で行っていましたが、参加者に大学を理解してもらうためには、まずキャンパスに来ていただくことから始まるとの認識の下、今回はじめて大学構内で開催することができました。

講演は、国立科学博物館古生物第三研究室長の富田幸光先生をお招きし「恐竜についての新しい考え方」と題して講演していただきました。

一昨年夏に公開された映画「ジュラシックパーク」で恐竜ブームがピークになり、その後あまり衰えていない時期であったことと、福井県で恐竜の化石が発見された、美濃加茂市近郊で哺乳類の化石が発見されたことと、



石や化石林が発見されたこともあって人気は上々といったところでした。

恐竜について映画でみる程度でしか知識のなかった私には、実在していた動物というより、むしろ「空想の動物」のイメージが強かったのですが、6〜7mもある象よりも大きい「ティラノ・サウルス」の映像や様々な角度から研究された恐竜の生態などを耳にする、一万数千年前の世界にタイムスリップしたような感覚で受け止めることができました。

そのせいか、講演後の聴衆者の質疑応答でも、予想以上に質問が相次ぎ、予定時間を延長するほどの盛り上がりようでした。

今後とも地道に回数を重ね、会員がお世話になった地域の皆さんに少しでもご恩返しができる意義ある講演会を開催したいと考えております。

1993(平成5)年度 監査報告書

平成5年度の学友会会計に関し、貸借対照表及び収支計算書を、平成6年9月20日総勘定元帳及び各種帳票類と照合し、監査した結果、適法且つ適切でありました。

平成6年10月2日

学友会 監査委員 桜谷 興道



学友会 監査委員 佐藤 一夫



収 支 計 算 書

1993年8月1日から1994年7月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	予算超過額 (△未達額)	備考
I. 収 入 の 部				
1. 基金運用収入	1,300,000	1,044,013	△ 255,987	
2. 会費収入	14,500,000	14,505,000	5,000	
3. 事業収入	100,000	0	△ 100,000	
4. 雑収入	600,000	496,571	△ 103,429	
(1) 受取利息	450,000	320,694	△ 129,306	
(2) 雑収入	150,000	175,877	25,877	
当期収入合計(A)	16,500,000	16,045,584	△ 454,416	
前期繰越収支差額	34,248,160	34,248,160	0	
収 入 合 計 (B)	50,748,160	50,293,744	△ 454,416	
II. 支 出 の 部				
1. 事業費	12,050,000	8,418,130	△ 3,631,870	
(1) 会報製作費	1,500,000	2,544,588	1,044,588	
(2) 特別企画費	3,500,000	1,840,837	△ 1,659,163	
(3) 記念品費	2,600,000	2,564,700	△ 35,300	
(4) 支部活動費	2,000,000	1,128,372	△ 871,628	
(5) 広報費	200,000	287,000	87,000	
(6) 補助金	200,000	50,000	△ 150,000	
(7) 福利費	2,000,000	0	△ 2,000,000	
(8) 事業雑費	50,000	2,633	△ 47,367	
2. 会議費	2,400,000	1,625,861	△ 774,139	
(1) 総会費	1,000,000	272,463	△ 727,537	
(2) 役員会費	300,000	450,598	150,598	
(3) 役員会旅費	900,000	902,800	2,800	
(4) 役員懇親会費	200,000	0	△ 200,000	
3. 事務費	1,880,000	5,113,239	3,233,239	
(1) 人件費	500,000	410,000	△ 90,000	
(2) 通信印刷費	1,350,000	4,264,458	2,914,458	
(3) 事務用品費	20,000	50	△ 19,950	
(4) 事務雑費	10,000	438,731	428,731	
4. 基金財産設定支出	6,000,000	3,000,000	△ 3,000,000	
(1) 学友会館建設基金	4,000,000	2,000,000	△ 2,000,000	
(2) 奨学金積立基金	2,000,000	1,000,000	△ 1,000,000	
5. 予備費	100,000	0	△ 100,000	
当期支出合計(C)	22,430,000	18,157,230	△ 4,272,770	
当期収支差額(A)-(C)	△ 5,930,000	△ 2,111,646	3,818,354	
次期繰越収支差額(B)-(C)	28,318,160	32,136,514	3,818,354	

収 支 予 算 書

1994年8月1日から1995年7月31日まで (単位:円)

科 目	93年度決算額 (A)	94年度予算額 (B)	比較増減 (A)-(B)
I. 収 支 の 部			
1. 基金運用収入	1,044,013	1,000,000	44,013
2. 会費収入	14,505,000	14,000,000	505,000
3. 事業収入	0	100,000	(100,000)
4. 雑収入	496,571	450,000	46,571
(1) 受取利息	320,694	300,000	20,694
(2) 雑収入	175,877	150,000	25,877
当期収入合計(A)	16,045,584	15,550,000	495,584
前期繰越収支差額	28,318,160	28,318,160	0
収 入 合 計 (B)	44,363,744	43,868,160	495,584
II. 支 出 の 部			
1. 事業費	8,418,130	9,850,000	(1,431,870)
(1) 会報製作費	2,544,588	1,500,000	1,044,588
(2) 特別企画費	1,840,837	2,000,000	(159,163)
(3) 記念品費	2,564,700	2,600,000	(35,300)
(4) 支部活動費	1,128,372	1,200,000	(71,628)
(5) 広報費	287,000	300,000	(13,000)
(6) 補助金	50,000	200,000	(150,000)
(7) 事業雑費	2,633	50,000	(47,367)
(8) 福利費	0	2,000,000	(2,000,000)
2. 会議費	1,625,861	1,800,000	(174,139)
(1) 総会費	272,463	400,000	(127,537)
(2) 役員会費	450,598	300,000	150,598
(3) 役員会旅費	902,800	900,000	2,800
(4) 役員懇親会費	0	200,000	(200,000)
3. 事務費	5,113,239	2,220,000	2,893,239
(1) 人件費	410,000	500,000	(90,000)
(2) 通信印刷費	4,264,458	1,500,000	2,764,458
(3) 事務用品費	50	20,000	(19,950)
(4) 事務雑費	438,731	200,000	238,731
4. 基金財産設定支出	3,000,000	5,000,000	(2,000,000)
(1) 学友会館建設基金	2,000,000	4,000,000	(2,000,000)
(2) 奨学金積立基金	1,000,000	1,000,000	0
5. 予備費	0	0	0
当期支出合計(C)	18,157,230	18,870,000	(712,770)
当期収支差額(A)-(C)	(2,111,646)	(3,320,000)	1,208,354
次期繰越収支差額(B)-(C)	26,206,514	24,998,160	1,208,354

計 報

かねてより入院加療中の亀山洋二先生が、七月一日午前六時四十分、享年五十一歳にて逝去されました。ここに謹んでご報告するとともに、心よりご冥福をお祈り致します。

一九九四年度事業計画

- (1) 総会の開催—今年度は大学近辺で総会を行う。開催の日程、場所については役員会にて決定する。
- (2) 会報の発行—従来通り発行する。
- (3) 支部設立に向けて一層積極的な取組を展開する。また既存の支部の活性化を図る。
- (4) キャンパスグッズの一層の充実を図る—試作品を作る。
- (5) 大学との懇談会を行う。
- (6) 準会員との交流会を持つ。
- (7) 講演会の開催をする。
- (8) 退職者に記念品を贈呈する。
- (9) 卒業生に記念品を贈る。
- (10) 積立金(学友会館設立積立、奨学金積立)をする。
- (11) 奨学金支給に関する細目を委員会で定め、発足させる。
- (12) OBへの福利厚生
- (13) 学友会室の移転及び充実を図る。

大学祭の案内

学生自治会執行委員長
寺澤まゆみ

本年度の大学祭は十月二十八日から三十日に行われます。
今年は自治会員総勢四名、内女子四名という寂しいメンバーですが、大学祭は昨年以上に盛り上げようと全員が必死でがんばっています。

計画されているイベントは、野外ステージを設けてのアマチュアバンドによるコンサートや、誰でも参加できるクイズやゲームなどがメインとなっています。その他には毎年恒例のモーターカーショーや模擬店、チャリティーバザー等企画しています。
大学祭の当日には皆様方の御来学を心よりお待ちしております。



キャンパスグッズについて

前回のキーホルダー、マグカップに加えてTシャツを二種(フロントプリント緑とバックプリント紺)を追加致しました。

◎販売単価 (税・送料込)

キーホルダー 三〇〇円

マグカップ 五〇〇円

Tシャツ 一、〇〇〇円

◎申込方法

現金書留または郵便為替でお願いします。

◎申込先

短大内学友会事務局まで

なお、グッズに関してご意見がございましたら、どうぞご連絡ください。



代議員総会

開催のお知らせ

平成七年度代議員総会を左記の要領で開催します。

代議員各位にはご多用のところ誠に恐縮ですが、ご出席くださいますようお願い致します。

また、一般会員の方もオブザーバー参加として歓迎します。

記

日時 平成七年九月二十四日(日)

午前十時より

場所 シティホテル美濃加茂

議題 一、平成六年度事業報告

一、平成六年度

決算報告・監査報告

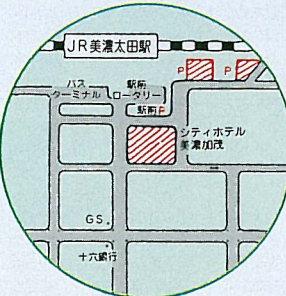
一、平成七年度

事業計画及び予算

一、支部活動

一、講演会の開催

一、その他



案内図

『25周年記念会員名簿』

のお知らせ

一昨年二十五周年記念名簿を作成しました。一期生から二十五期生までの会員名簿です。昨年より販売をしています。購入を希望される方は、同封の申込み用紙に記入の上、郵便小為替(郵便局で購入) 四千円分を同封し、学友会事務局宛にお送り下さい。折り返し発送致します。尚、名簿委員会では、毎年会報を通じて会員の住所勤務先等の変更に対応していますが、昨年百九十通の宛て先不明による返却がありました。変更がありましたら、同封のハガキにて連絡してください。整理番号は封筒のお名前の下番号です。

名簿委員より

編集後記

会員の皆さんお元気ですか。今年も会報をお届けする時期となりました。
阪神大震災といい、地下鉄サリン事件といい、心の痛む出来事が続いています。被災された方々や被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申しあげます。
発刊にあたりご協力いただきました方々に心より厚くお礼申し上げます。